

自 2026年4月 1日  
至 2027年3月31日

## 2026年度 事業計画書

公益財団法人ハーモニィセンター

# 目次

はじめに .....	1
1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・牧場等の運営 .....	2
1-1 ポニーキャンプ®・野外体験キャンプ・HAC	
1-2 カウンセラーの募集とトレーニング	
1-3 移動動物教室	
1-4 蓼科ポニー牧場	
1-5 新拠点整備に向けた取り組み	
2. 動物広場等の受託管理 .....	4
2-1 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の3年目)	
2-2 水元スポーツセンター公園子供動物広場(受託・1年契約)	
2-3 相模原麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理・指定期間5年の3年目)	
2-4 板橋こども動物園(指定管理・指定期間5年の2年目)	
2-5 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)	
3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及 .....	8
4. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進 .....	8
5. 社会教育に関する調査研究の推進及び研究成果の普及 .....	9
6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信 .....	9
6-1 機関紙「THE HARMONY CENTER」	
6-2 WEB サイト・SNS の運用	
6-3 パンフレット・チラシの活用	
7. 各種セミナー等 .....	10
8. 法人運営にかかる業務 .....	10
8-1 職員等の研修	
8-2 会議等の実施	
8-3 運営体制強化に向けた取り組み	
8-4 他団体との連携等	
8-5 日常法人事務	
【付録】公益財団法人ハーモニセンター中期計画 2024-2028 概要 .....	12

## はじめに

ハーモニセンターの2026年度は、事業を着実にやりながら、社会から信頼され、貢献する団体であり続けるための仕組みを整える1年となります。

キャンプ事業はポニーキャンプを中心に、ファミリーキャンプ、登山やスキーなどの野外活動キャンプ、日本在来馬への理解を深めるキャンプ、里親子ファミリーポニーキャンプなどを多様に展開します。いずれも好評を得ているものではありませんが、使用施設や社会状況を含む環境変化に対応する改良、刷新もまた必要です。この年度には、蓼科ポニー牧場の宿泊棟リノベーションの着手を予定していますが、これも、よい活動を長く続けるために不可欠な取り組みです。また、蓼科ポニー牧場は2027年度に開設50周年を迎えますので、より長く愛される施設とするために協力者を募り、多くの人々とともに記念の年を祝うことのできる体制を整えます。

他方、前年度には、東日本大震災以来閉鎖状態にあった相馬ポニー牧場のクロージングイベントが行われ、3月には小貝川ポニー牧場を閉場しました。閉場には合理的な理由がありますが、活動の場が減少していることは大きな課題です。より多くの子供たちに体験を届けるための場の確保に向けた取り組みを加速させます。

地方自治体から運営を担っている動物広場については、近年、気候変動の影響を大きく受けており、特に夏場の活動に大きな制限が生じています。しかし、身近な環境で動物介在教育の恩恵を受けられる動物広場の存在は、地域の子供たちにとって非常に重要なものです。これまでと同様、自治体と細やかな連携を図りながら施設の改善を進めたり、運営上のさまざまな工夫を凝らすことで、多くの子供たちに活動の機会を提供し続けます。

子供に関する大きなトピックとして、12月の「こども性暴力防止法」の施行があります。これは、教育や保育の場での子供への性暴力を防ぎ、子供の心と身体を守るために、教育事業者に対策を求めるものです。ハーモニセンターは義務事業者ではありませんが、認定事業者となり、必要十分な対応ができる体制を整えたいと考えています。この取り組みには職員のみならず、カウンセラーなどを含む子供に関わるすべての人の理解と協力が必要です。これを機にチャイルド・プロテクションへの共通理解を深め、安心して活動に参加してもらえる情報発信にも努めます。

さらに、社会的要請に応える事業展開や労働環境の改善、財源の確保など、組織強化も重要な課題です。この年度は、権限と責任を明確にした新しい運営体制の構築や、職員の処遇改善のための検討も着実に進めなければなりません。

課題は多岐にわたりますが、多くの人々に長年愛されてきた活動をていねいに積み重ねながら、次につながる仕組みづくりを着実に進めます。

## 1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・牧場等の運営

### 1-1 ポニーキャンプ®・野外体験キャンプ・HAC(Harmony Active Challenge)

ハーモニセンターでは1972年に実施した第1回北海道とかちポニーキャンプに始まり、50年以上にわたり、夏休み等の長期休みを中心に子供たち(5歳～中学3年生)を対象としたキャンプを実施している。「自分自身の魅力に自信を持って生きていける人を育む」をテーマに、この年度も、今の参加者や社会に合った形へのマイナーチェンジを加えながらキャンプを実施していく。

ポニーキャンプを中心に、家族を対象としたファミリーキャンプやスキー・登山・スケート・野外炊事などの野外活動キャンプといったさまざまなタイプのキャンプを実施するとともに、ニーズを反映した日帰りプログラムや新規キャンプにも取り組む。

また、一般財団法人 Thoroughbred Aftercare and Welfare(TAW)の助成を受けて、日本の在来馬への理解を深めるキャンプを前年度にも実施した木曾、宮崎のほか、新たに北海道でもキャンプを行う。社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団の助成による、里親子ファミリーポニーキャンプも継続して行う予定。

人気があり長く続いているキャンプが多いが、社会状況の変化、使用施設を含む環境変化もあり、まったく同じ形で続けることが難しいものも生じ始めている。引き続き良質な活動を提供できるよう、今の時代に合った形でプログラムの見直し、改善を続けていきたい。

ポニーキャンプ	18 コース GW(2)・夏(9)・冬(3)・春(3)・週末(1)
ファミリーキャンプ	8 コース(うち 1 コースは里親子ファミリー)
野外体験キャンプ	7 コース 登山(1)・スキー(3)・在来馬(3)
HAC/日帰り	適宜

主催キャンプ・HAC(代々木事業所担当分)

### 1-2 カウンセラーの募集とトレーニング

カウンセラー(青年ボランティア)は、子供たちに対等な目線で向き合い、寄り添う、ハーモニセンターのキャンプをはじめとする活動に不可欠な存在である。ボランティア募集サイトなども活用しつつ積極的に募集を行うと同時に、十分な研修や交流の機会を設け、質の高い事業運営環境を構築する。研修については、カウンセラーが主体となって行うものと、職員や外部講師によるスキルや知識、新しい視野、考え方を提供できる研修会を合わせて行う。また、こども性暴力防止法の施行が年内に予定されているので、チャイルド・プロテクションについての共通理解が深まるような取り組みを進める。

国際交流、ホースセラピー、児童の社会的養護など、カウンセラーたちの関心の対象は広がっている。そういったニーズに合う、視野を広げられるような活動も少しずつ拡大し、それぞれに興味があるカウンセラーをしっかり拾い上げ、キャンプ以外にもやりがいを感じられる場を増やしていきたい。

また、この年度は試験的に、他の野外教育団体と合同ボランティア説明会を実施し、カウンセラー活動の中でも団体同士の横のつながりを持てるように努める。

カウンセラー募集	オンライン合同説明会の実施(4～6月に7回程度) 個別説明は随時対応 ボランティア募集サイト activo(アクティボ)での募集 大学・専門学校での説明会の実施・SNSを通じた告知
カウンセラー研修	蓼科宿泊研修(6月・11月・2月/計4回) その他、乗馬や野外スキルを身に付けるための日帰り研修を複数実施するとともに、プログラムの立案やリスクマネジメントなどの研修会も行う。

### 1-3 移動動物教室

移動動物教室は、ポニー乗馬やモルモット・ヤギ・ヒツジ・ウサギ等の小動物とのふれあいを学校・幼稚園・地域のイベント等に届ける事業である。近年は、大学とコラボレーションしたり、商店街のお祭、地域活性化の実験的イベントや公園利活用を検討するためのイベント等に動物を連れて行ったりする機会も増えており、単なる動物とのふれあいの枠を超えた、地域コミュニティ醸成に資する非常に有効なプログラムという認知も広がってきている。

この年度も、自治体や地域活動を行う団体等に積極的に働きかけ、地域社会に与えるインパクトを理解してもらい、実施の機会を広げる。またそこから常設施設の設置を模索することや派生的に新事業を生み出していくことも目指したい。

また、TAWの助成を受けて実施する移動動物教室については、東京都多摩エリア・長野県茅野市・神奈川県相模原市を中心に複数地域で年間を通じて展開する。

### 1-4 蓼科ポニー牧場

蓼科ポニー牧場では、自主事業のポニーキャンプのほか、年間を通して乗馬レッスン、障害者乗馬レッスン、引馬を実施する。また、地元の子供たちを中心とする「蓼科ジュニアポニークラブ(TJPC)」、不登校児のための居場所事業「ひだまりファーム」、ハーモニセンターの子供たちのための乗馬大会「ポニーライダーズカップ」、地域還元事業「牧場フェスティバル」なども行うほか、カウンセラーOBや卒業生たちが集う機会としてのOB会を受け入れる。

あわせて、法人で使用するポニーの育成、調教を行うほか、移動乗馬教室、スタッフ・カウンセラー研修等、ハーモニセンターの馬事拠点としての機能を果たす。さらに、連携・協働協定を結ぶ任意団体ぽこあぽっこが運営する「牧場ようちえん ぽっこ」に活動場所を提供し支援すること、外部団体・企業の研修先としての提供等を通じて、更なる平日利活用を模索していく。

牧場の環境整備については、2023年11月に竣工した新宿舎、2024年3月に完了した食堂・トイレ等のリノベーションに引き続き、老朽化した施設の改修や、新たな設備の整備を進め、利用者が快適に過ごせるものへ複数年かけて更新していく。

この年度は、築38年となり老朽化が著しいアメリカンハウス(宿泊棟)のリノベーション工事に着手する。このリノベーションにあたってはファンドレイジングを行い、リノベーション工事期間中も多くの人に関心を向けていただけるようにしたい。

2027年度に、蓼科ポニー牧場は開設50年を迎える。新しくなったアメリカンハウスのお披露目を皮切りに、多くの人と記念の年を祝うことができるようにしたいと考えている。蓼科ポニー牧場を「ポニーキャン

プの場」「ポニーの供給基地」「実験的事業の場」として明確に位置づけ、より長く愛される場所にしていくための取り組みを進めたい。

主な事業	ポニーキャンプ18コース GW(2)・夏(9)・冬(3)・春(3)・週末(1) ファミリーキャンプ 7コース 外部団体合宿 6 コース 宿泊型 OBOG 会 8 コース ワンデイキャンプ(夏季限定)15 コース 蓼科ジュニアポニークラブ(TJPC) 2 回/月(8月を除く) ひだまりファーム 毎週火曜日(長期休暇期間除く) ポニーライダーズカップ 10 月17 日(土)-18 日(日) ポニーライダーズカップ強化合宿 2 コース 宿泊型カウンセラー研修 5 コース(うち 1 コースはハーモニカレッジと共催) 宿泊型職員乗馬研修 1 コース 牧場フェスティバル 11 月 14 日(土)
------	--

### 1-5 新拠点整備に向けた取り組み

ハーモニセンターのプログラムを広く、多くの子供たちに届けられるよう、中長期的視点を持って新拠点整備に向けた取り組みを進める。これには、キャンプを行える首都圏の施設や都市型の居場所機能を持った施設、既存の施設に新たな機能を加えたものなど、多様な形態が考えられる。また、法人のより安定した経営のために、長期的な視点に立って新たな施設運営受託の可能性を模索する。

いずれの場合も多様な資源(ノウハウや財源、人的資源)が必要となるので、ハーモニセンター単独での運営に限定することなく、各拠点の目的に見合う効果が発揮できるよう、自治体への働きかけを地道に続けるとともに、それぞれの地域で特定分野の知見・経験をもつ既存団体等との連携を積極的に進める。

## 2. 動物広場等の受託管理

地方自治体等が設置した施設を受託運営し、各自治体と連携しながら、引馬や小動物とのふれあい、ポニー教室、動物クラブなどを提供する。合わせて、中学生等の職場体験、大学生・専門学校生の実習・研修の受け入れも行い、青少年のキャリア教育への貢献を果たす。

### 2-1 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の3年目)

所管課	目黒区都市整備部道路公園課
面積	3,310 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(7 頭)・ウサギ・モルモット・イヌ・カメ
主な事業	ポニー乗馬(引馬) 小動物とのふれあい ポニー教室 個人:小中学生 団体:障害児者グループ、健常児者グループ、幼稚園・保育園・学校など

	動物クラブ 医療的ケア児とその家族を対象としたスペシャルプログラム 各種受け入れ(ボランティア、中学生職場体験、大学生の研修など) 各種イベントの実施(ポニーまつり、ミニイベント) 碑文谷ポニーキャンプ
--	---

一昨年亡くなったふれあい犬「リン」に代わる、「ふく」を2025年12月に迎えた。オーストラリアン・ラブ ラドゥードルというセラピー犬として活躍する犬種で、多くの方々に親しまれることが期待される。

前年度に行われたポニー舎の改修工事によって、一定の暑さ対策が期待できるが、近年は猛暑となる期間も長く、屋外活動が制限される場合も多い。動物と利用者の安全を最優先に考えたプログラム運営を行うと同時に、その時間の一部を学びの時間として活用したい。たとえば、動物クラブの子供たちを対象とした、英語でのコミュニケーション力習得や、聴覚に障がいのある方も安心して楽しめる手話の学習にも取り組み、あらゆる利用者に対して公平かつ質の高い対応ができる体制を整える。また、昨年10月～12月の工事が行われていた期間に代替事業として行った動物クラブの日帰り遠足についても、広場での活動をより豊かなものにするため継続して実施する。

運営面では、区の方針で利用料金収受のキャッシュレス導入が決まっており、団体利用手続きを含めた利用者負担の軽減が期待できる。手続きの変更に伴う混乱が生じないように努め、スタッフ一人ひとりが高い意識を持ち、自信を持って良質なサービスを提供できる運営に努める。

## 2-2 水元スポーツセンター公園子供動物広場・ポニースクールかつしか(受託・1年契約)

所管課	葛飾区教育委員会事務局地域教育課
面積	3,263 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(13頭)
主な事業	ポニー乗馬(引馬) ポニー教室 個人:葛飾区在住・在学の小学生から中学生 団体:区外を含む中学生以下の団体 障害児乗馬教室(パートナーアニマル教室) 個人:葛飾区在住・在学・在勤の小学校1年生から20歳 団体:中学生以下の団体(区外利用可能・中学卒業以上の新規受付は停止) イベントの実施 「区民感謝乗馬デー」(年2回)「こどもまつり」「クリスマスホースショー」等 移動乗馬教室 「葛飾区子どもまつり」(4月)「かつしかスポーツフェスティバル」(10月) 介護予防乗馬(65歳以上を対象とした乗馬教室)年間4期(1期3回)

一昨年、昨年と2年にまたがって行われた馬場改修工事により、馬場全面を広く使えるようになった。移動可能な仕切り柵によって、複数のプログラムを同時に行う際の自由度が高まったので、日常の乗馬教室だけでなく、各種イベントにも柔軟に展開し、質の高い運営を目指す。

近年は夏場の暑さが尋常ではないものとなっている。ポニー教室を比較的暑さの影響を受けにくい時間にずらしたり、近隣の地区センターを借りて代替プログラムを行ったりできるように、教育委員会と細やかな

連携を図りながら、運営を行いたい。また、ポニースクールの運営には、保護者の協力も欠かせない。イベント運営に力を貸していただくなど、よい関係性を保ち、協力をしながら、子供たちの育成の場、第三の居場所としての役割を果たしていく。

また、ポニースクールには、毎日のようにさまざまな年代の子供がポニーに触れる環境があるので、新馬の馴致、調教の場としても活用し、子供の活動に適したポニー供給の役割も果たしていきたい。

### 2-3 相模原麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理・指定期間5年の3年目)

所管課	相模原市環境経済局環境部公園課
面積	15,000 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(15頭)・ヤギ・ヒツジ・モルモット・リスザル・ミーアキャット・シマリス・ハイラックス・シカ・プレーリードッグ・ウサギ・カピバラ・鳥類(文鳥・クジャク・チャボ・オシドリ等)
主な事業	ふれあいコーナー 展示コーナー ポニー乗馬(引馬) ポニー教室(小学生から中学生) 障害児ポニー教室(市内在住・在学の小学生から中学生) 移動動物教室(施設及び団体対象) 動物フェスティバル(年2回) 動物クラブ ポニーボランティア

この年度は、指定管理5年間の3年目となる。引き続き多様なプログラムの改善を進めるとともに、運営のよい部分を積極的に発信し、広く伝えていきたい。SNSも存分に活用し、「利用したい」と思わせる情報発信に努める。

夏場の猛暑は大きな課題となっているが、動物の健康管理に注意しながら、新規の体験型プログラムも積極的に展開し、暑さによる利用者の減少を食い止めることを目指したい。

学校に行きにくい子供のための支援プログラム「はらっば」については、ゆるやかではあるが、参加が増加しつつある。活動を充実させ、社会教育的要素のある「居場所」としての役割を担える施設としての認知を高めたい。

前年度と同様に、市内にある麻布大学の1年生の実習受入と、ポニー派遣の実習を行い、大学との協力関係の強化に努める。同時に、新たな移動動物教室の開拓を行って地域貢献を進め、ふれあい動物広場の存在を広く地域にアピールしていきたい。

### 2-4 板橋こども動物園(指定管理・指定期間5年の2年目)

所管課	板橋区土木部みどり公園課
面積	本園 1,907 m <sup>2</sup> 高島平分園 583 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(9頭)・ヤギ・ヒツジ・モルモット・ウサギ・シカ・カメ・インコ・リス
主な事業	ヤギ・ヒツジの放し飼い、ふれあい

	ヤギの屋根のぼり、橋渡り モルモットのふれあい ポニー乗馬 引馬、親子乗馬、高齢者乗馬、障害者乗馬 ポニーの馬車 こども動物クラブ ポニー教室、親子ポニー教室 出張動物園、ふれあい 団体受け入れ 幼稚園・保育園・学校等 イベント開催(冬のミニイベント・ヒツジの毛刈り・公園まつり・ツリークライミング等) 板橋こどもキャンプ 施設や企業との協働企画 軽食やお土産の販売、キッチンカーの導入 公園清掃、樹木管理
--	---

指定管理5年間の2年目となる今年度は、これまでの取り組みを着実に行うとともに、前年度から新たに始めた取り組みをブラッシュアップし、来園者目標数の達成を目指す。具体的には、区立熱帯環境植物園との協働プログラムの実施や、区内団体の行うプレーパークの開催、清掃活動を兼ねたヤギの散歩プログラムなどが該当する。近隣施設との協働は従来から取り組んで来たが、単にイベントをとともに盛り上げるということに留まらず、相互の利用者にアプローチし、公園の利活用の幅をより広げるとともに、ともに利用が活性化されることを目指す。

広報においても、自治体や近隣施設との連携による掲示依頼や広報誌の活用を進め、より多くの利用者への情報発信を強化する。SNSについても投稿頻度や内容を見直し、閲覧者数の増加と影響力の向上を図っていく。

さらに、動物クラブ参加者を対象としたポニー教室を継続し、馬に興味を持つ子供たちの受け皿として機能させるとともに、新たな体験機会の創出を目指す。

## 2-5 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)

所管課	葛飾区都市整備部公園課
面積	2,100 m <sup>2</sup>
飼育動物	ポニー(5頭)・ヤギ・ミニブタ・ウサギ・アカリス・リスザル 鳥類(クジャク・セキセイ・オンドリ等)
主な事業	ポニー乗馬(引馬) 小動物とのふれあい ポニー教室(年3回/1回につき5日間) 動物クラブ 各種イベントの開催 移動動物教室(高齢者施設や盲学校など) 幼稚園・保育園・学校等の団体の受け入れ 中学生職業体験の受け入れ

上千葉砂原公園ふれあい動物広場は地域に密着した動物広場として、お散歩のついでに多くの人が訪れてくれる場所となっている。1日に何度もポニー乗馬やふれあいコーナーを利用してくれる子供も多く

いるし、動物に会いに来てくれる常連の大人も少なくない。子供から大人までたくさんの利用者が楽しめる、この雰囲気大切に、公園全体の利用が増えることを目指した運営を行う。

近年では暑い期間が長く、高温によりポニー乗馬とふれあいコーナーが中止となることが多いが、実施可能な時間をできるだけ確保し、利用者数の維持に努めたい。

### 3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

自治体や他団体との協働を通じて、さまざまな場面でポニーとのふれあいや乗馬の機会を提供し、地域コミュニティの活性化や福祉・医療分野での貢献を行う。

TAWの助成を受け、東京都多摩エリア・長野県茅野市・神奈川県相模原市を中心に、巡回ポニースクールを行う。実施にあたっては、単なる一過性のイベントとせず、地域コミュニティの醸成に役立てるよう、各地域の団体等とも協力して進める。

2024年度から継続実施している社会的養護下にある子供を養育する里親家庭を対象としたファミリーキャンプを、この年度も、社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団の協力を得て実施する予定である。前年度には全国里親会が企画する里子ユースキャンプ(高校生、大学生が参加対象)に協力しており、里親会からは引き続き希望があるため、本年度も実施を検討する。

医療的ケア児支援法の施行を受けて需要が高まっている医療的ケア児を対象としたポニーとのふれあいについては、医療従事者の協力を得て、碑文谷公園こども動物広場で引き続き行うほか、助成金を活用して動物広場外で同様の事業を行うことを予定している。

前年度から始まった、障害ある方々を対象にモンゴルでの乗馬を目標とした「Road To Mongolia」は、般社団法人 Su-Clu-Lab Terrace・インクルーシブ運動場と共に実施している。初回は、1名の車いすユーザーのみの参加であったが、次回(2027年6月)は、複数人の参加を目指して、この年度から蓼科ポニー牧場での練習を開始する。このプロジェクトを通じて、夢を持つことの大切さを伝え、障害があっても夢をあきらめないですむ社会の創造を目指す。

また、動物広場や牧場等で学校に行きづらさを感じる子供たちの受け入れに積極的に取り組むなど、動物介在教育の利点を活かして、児童福祉の分野での貢献も進めたい。

### 4. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進

日独青少年相互交流計画は、前年度の8月に日本青年団14名が6年ぶりに渡独し、ドイツ青年との交流を果たした。この年度は、10月21日～11月3日にドイツ青年団15名程度が来日予定となっている。

また、渡独時に訪問したドイツ国際平和村について学ぶオンラインイベントについては、鳴子温泉もりたびの会・鳴子国際交流協会・MARI KUSAKARI FOTOGRAFIE・日本ユースホステル協会とともに、継続的に実施を予定している。

## 5. 社会教育に関する調査研究の推進及び研究成果の普及

公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会、JRA日本中央競馬会、TAW、馬という領域ネットワーク、その他のグループが乗馬の効用、馬の活用状況に関連して実施する研究集会、調査、交流会などに積極的に参加・協力し、ハーモニセンターが蓄積してきたノウハウ、成果等を積極的に発信すると共に、参加職員の資格取得、研修、情報収集にも努める。更に、これらのネットワーク、そしてカウンセラーOB・OG、ハーモニセンターの卒業生らのネットワークを活かし、在来馬の保存・活用に関連するプログラムの展開も一層進めたい。

また、ハーモニセンターの活動への理解を得て、広げていくためには、活動の効果、意義を測定、言語化し、伝えていくことが不可欠である。大学などの教育機関や医療・福祉の関係団体や、自治体や商工会等の地域コミュニティづくりの社会実験へのプログラム提供など、さまざまな課題に直面する子供たちの支援を行う団体等と協働しながら、調査研究に積極的に取り組みたい。

## 6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

キャンプをはじめとするハーモニセンターの活動を広く知ってもらうために、機関紙、WEBサイト、ブログ、SNS等を活用して、情報発信を行う。

あわせて、運営基盤の強化につながる広報のあり方を検討し、積極的に変革を進めたい。

### 6-1 機関紙「THE HARMONY CENTER」

会員、関係者、公的機関等を対象に、機関紙「THE HARMONY CENTER」を月刊で2,000部発行する。まだハーモニセンターを知らない多くの人に活動を広めるため、配布機会を増やし、SNS全盛の時代にあっても、紙を媒体とした情報発信を続けることで、“ハーモニセンターを必要とする人”に届けることを目指す。

また、「活字離れ」が進む昨今にあって、新たな読者を獲得するためアンケート調査を実施して機関紙のニーズを探ると共に、紙媒体のメリットを活かせるような紙面づくりを進めたい。

### 6-2 WEBサイト・SNSの運用

キャンプなどの最新の情報を伝えるとともに、定款や決算など開示情報を掲載する場としてWEBサイト(<https://harmonycenter.or.jp/>)を運用。ファンドレイジングの推進やユーザビリティの向上に向けた改修にも着手したい。あわせて、より手軽に情報を発信し、情報交流を図るツールとして、ブログ、SNS(Facebook/Instagram等)を運用する。SNSについては常に新しいツールが提供されているため、対象や提供する情報により合致する新しいものも積極的に活用する。

### 6-3 パンフレット・チラシの活用

情報発信はWEBサイトやSNSを通じて行われるものが多くなっているが、各事業所やイベント会場な

ど、紙媒体が有効な場面は依然として多くある。必要に応じて内容をブラッシュアップ、使いやすいものを作成し、積極的に有効活用を進める。

## 7. 各種セミナー等

過去キャンプ参加者やカウンセラーOB/OGにも子育て世代が多くおり、子育てに対する不安や悩みを抱えているという声を数多く聞く。そこで、これらの不安や悩みの解消につながるような講演会やイベント、他団体と連携して、子育ての改善につながるような事業を展開したい。この年度も、過去好評を得ている横浜市保育施設・りんごの木の柴田愛子先生の講演会を実施する。

## 8. 法人運営にかかる業務

### 8-1 職員等の研修

よりよい事業展開が行えるよう、担当業務、経験年数等に応じたさまざまな研修を年間を通じて実施する。前年度は、より楽しく学べる研修を目指し、外部施設訪問や外部講師を招いての研修を行い、実りあるものとなった。今年度も同様に充実した研修を行いたい。また、国内外のセミナー、研究大会等に積極的に職員を派遣し、情報の収集・発信に努めるとともに、関連団体等との関係づくりを進める。合わせて、業務に関連する資格等の取得を推奨する。

また、この年度は12月の「こども性暴力防止法」の施行に向けた取り組みが不可欠であり、職員が理解を深められるような研修機会を複数設けたい。

### 8-2 会議等の実施

法人運営に必要な諸会議を適宜実施する。

- |          |                                 |
|----------|---------------------------------|
| (1)評議員会  | 2026年6月                         |
| (2)理事会   | 2026年5月・2027年3月(必要に応じて臨時理事会を実施) |
| (3)運営会議  | 年15回程度                          |
| (4)施設長会議 | 年11回程度                          |

### 8-3 運営体制強化に向けた取り組み

2025年4月の公益法人制度改革により、各法人の経営判断がより尊重されるようになったが、同時に、更なる自律的ガバナンスの充実が求められるようにもなった。その実現のために、この年度は権限と責任を明確にした運営体制の構築を進める。具体的には、新しい運営体制を検討するワーキンググループを立ち上げ、従来の形式にとらわれない案を作成。十分な議論を重ねて、次年度には運用を開始したい。

また、2028年度までに新たな公益法人会計基準への切り替えが必要であるので、2027年度には新基準に対応できるよう、準備を進める。

#### 8-4 他団体との連携等

関連団体への役員・委員・指導者等の派遣や、運営協力を積極的に行い、馬の利活用や青少年教育の向上に貢献する。また、大学や専門学校等の教育機関の実習生受け入れや授業の提供などを通じて、実践を伴う教育への貢献を積極的に進める。

役員等派遣	公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会・NPO法人自然体験活動推進協議会 NPO法人日本Gボール協会・一般財団法人日本ユースホステル協会 一般財団法人陽だまりハーモニー・馬という領域ネットワーク 長野地区乗馬倶楽部振興会 等
運営協力等	認定 NPO 法人ハーモニカレッジ・任意団体ぽこあぼっこ(牧場ようちえん ぽっこ) 馬という領域ミーティング・公益社団法人日本キャンプ協会 大都市圏動物園事務主管者会議・NPO 法人川に学ぶ体験活動協議会 河川流域交流会・馬を用いたセラピー療育研究プロジェクト 一般財団法人日本ユースホステル協会(馬の楽校) 認定 NPO 法人ブリッジフォースマイル・麻布大学(連携協定) 等

※ このほかに、教育機関の実習生受け入れ等を行うほか、依頼に応じて馬の調教や乗馬指導に関する指導者を派遣する。

#### 8-5 日常法人事務

円滑な法人運営のため、以下の事務を滞りなく行う。アウトソーシングや新たなシステムの導入も積極的に進め、各事業所の負担を低減するとともに、効率的な運営を目指す。

- (1)事業執行管理
- (2)経営管理
- (3)人事労務管理・職員研修
- (4)会員管理
- (5)寄付金・助成金事務
- (6)渉外事務
- (7)庶務

ポニーキャンプ®・ポニークラブ®は、公益財団法人ハーモニセンターの登録商標です。

## 【資料】

### 公益財団法人ハーモニセンター中期計画 2024-2028～Riding for All をさらに広げる～概要

#### 取り組みの基本指針

私たちが提供する「思い出すだけで胸が熱くなる体験」は、単に楽しい思い出というだけでなく、その人がつらい思いをしている時にも心の支えとなるものです。すべてを投げ出してしまいたくなる時に踏みとどまらせることのできる、暖かい思い出や人のつながりをすべての人に届けることが、「Riding for All」の究極の目標です。

「Riding for All」をより広げるために、提供する体験の質をより高める、そしてそれを支える組織の強靱化と持続性を高める取り組みを行います。

#### 取り組み

##### ① より広い地域展開

- ・ 数年をかけて宿泊を伴うキャンプが行える事業所の開設を目指します
- ・ ハーモニセンターの得意分野を生かせる施設の運営受託に積極的にエントリーします

##### ② より多様な対象に向けた事業展開

- ・ 医療的ケア児や登校をためらいがちな児童・生徒、社会的養護下にある子どもなどを対象としたスペシャルニーズプログラムに、専門家や関係団体の協力を得ながら取り組みます
- ・ 高齢者や、現在、直接の事業対象から外れている高校生を対象とする事業を検討します
- ・ 牧場の価値を高める「牧場ようちえん ぽっこ」の事業運営をサポートします

##### ③ 青少年教育の発展への寄与

- ・ 日本の青少年教育全体の振興につながる取り組みをします

##### ④ 人的・財務的基盤の強化

###### 人的基盤

- ・ 職員が必要なスキル・ノウハウを身に付けられるよう支援します
- ・ 長く働きたいと思える労働環境の構築を進めます
- ・ 持続性のあるカウンセラー制度を保ちます

###### 財政的基盤

- ・ 事業投資や職員の待遇改善につなげられるよう“稼ぐ力”の向上を進めます
- ・ ファンドレイジングを含む“支えてもらう力”の向上を進めます

###### ガバナンス強化

- ・ 計画推進に必要な事務局機能の強化を進めます
- ・ 信頼される組織として必要な良好なガバナンスの維持、改善に努めます

中期計画で示したのは、より多くの人にハーモニセンターの良質なプログラムを届け、「Riding for All」に一歩でも近づけようという意志です。その実現には、新しいポニー牧場や動物広場も必要ですし、そこで汗を流す職員やカウンセラーも必要です。全体としては、組織の拡大を志向していると言えます。

「拡大などできるのか？」という声もあるでしょう。しかし、現状維持をするためにでさえ、年間数パーセントの成長は必須です。いずれにしても変化は不可欠なのだから、より多くのプログラムを、それを必要とするより多くの人たちに届けられるよう挑戦したいと思います。ハーモニセンターのよさをきちんと伝えることができれば、私たちのプログラムに参加したいという人はもっと増えますし、応援してくれる人や団体・企業ももっと見いだすことができるでしょう。目標は決して無謀なものではありません。

とは言え、その実現はたやすくはありません。社会や制度の変化に合わせてアップデートしながら、スキルを継承し、プログラムの質を維持向上させる。ハーモニセンターのよさを表現し、「支えてほしい」ときちんと伝える。職員一人ひとりが安心して働ける環境を整える。こういったことを同時に進める必要があります。どのタイミングでなにができるのかを見極めながら、各年度の事業計画にはより明確なアクションプランを示し、着実に進めていくことが求められます。

たくさんの方々の努力や工夫が必要となりますが、多くの人に「思い出だけで胸が熱くなる体験」を提供し、そのことを私たち自身も楽しみたいと思います。そして、私たちの活動に多くの人に参加してもらうことで、「ハーモニセンターが大好きだ」という人が増え、次の活動の担い手（職員・カウンセラー等）、支え手（支援者・協力者）を生み出していくという好循環を作っていきましょう。

公益財団法人ハーモニセンター  
代表理事 村松真哉(策定当時)

これは「公益財団法人ハーモニセンター中期計画 2024-2028 ～Riding for All をさらに広げる～」より一部抜粋、編集したものです。計画全文は、公益財団法人ハーモニセンターWEBサイトでご覧いただけます。